

開発途上国の発展と地球規模の環境保全を担うパイオニアの育成



INTERNATIONAL
AGRICULTURAL DEVELOPMENT
Faculty of International Agriculture and Food Studies
Tokyo University of Agriculture

国際農業開発学科

Department of International Agricultural Development

国際協力ができる人 **農**業ができる人 **開**発を担う人

農業農村開発分野

農業開発経済学研究室
農村開発協力研究室



熱帯生物生産分野

熱帯作物学研究室
熱帯園芸学研究室



熱帯農業環境分野

熱帯作物保護学研究室
農業環境科学研究室

学部教養分野

健康科学研究室

自然科学と社会科学の融合

実習・実験農場
宮古亜熱帯農場

大学院 農学研究科
国際農業開発学専攻

・博士前期課程(修士課程)
・博士後期課程(博士課程)

専門基礎科目

農業農村開発学総論
熱帯農業入門

専門コア科目

熱帯生物生産分野

熱帯作物学総論
熱帯園芸学総論
栽培学原論
熱帯食用作物学
熱帯野菜学
熱帯果樹学
作物育種学
植物学



熱帯農業環境分野

熱帯作物保護学総論
農業環境科学総論
食料生産環境学
作物病理学
熱帯農業微生物学
作物害虫学
熱帯昆虫生態学
熱帯植物生態学
熱帯土壌学
野生動物管理学



農業農村開発分野

農業経済学
農業開発経済学
国際農業経済論
比較農業論
国際農業協力論
農業経営学
農村開発社会学
農業普及論



国際志向

英語科目

- ・英語(一)～(四)
- ・英語リーディング
- ・TOEIC英語
- ・英語会話
- ・ビジネス英語
- ・科学英語

初級外国語科目

- ・中国語
- ・スペイン語
- ・フランス語
- ・ポルトガル語
- ・韓国語
- ・インドネシア語
- ・タイ語

英語による専門教育プログラム

- ・Food and Environment in Economic Development
- ・Farmers and Consumers in Japan
- ・Comparative Food Production Technologies

課題別科目

- ・インターナショナル・スタディーズ

※赤字は必修科目

その他多数科目開講

卒業生の進路

- 小売業: 食料品・飲食店・スーパーマーケットなど
- 製造業: 食料品・繊維工業・化学工業・機械工業など
- 卸売業: 食料品・医薬・農薬など
- 農業: 自営(新規就農をふくむ)・農業生産法人・種苗会社・畜産業など
- 各種団体: 全国農業協同組合連合会・各農業協同組合・自治体公社など

- 教員: 公立高校・公立中学・私立学校など
- 公務員: 国家公務員・都道府県職員・消防士・警察官など
- 青年海外協力隊: エルサルバドル・セネガル・ザンビア・マラウイ・ウガンダなど
- 進学: 本学大学院国際農業開発学専攻・国立大学大学院・専門専修学校・海外留学など

総合科目 (実験・実習・演習など)

赤字は必修科目

実験科目



農学基礎実験での病徴観察

果実に含まれるアスコルビン酸の定量

農学基礎実験
農学専門実験

演習科目・卒業論文



調査の合間にお手伝い（ガーナ）



与論島でのサンゴ調査

卒業論文演習（一）
卒業論文演習（二）

卒業論文

実習科目



イネの収穫はざ掛け（厚木）

農業総合実習



ブドウの袋掛け（伊勢原）

農業専門実習



ヤムイモの出荷調整（沖縄県宮古島）

農業開発実習



福島県ナシ農家での実習

ファームステイ



パプアニューギニアで主食の
サゴヤシデンプンの抽出

海外農業実習（一）（二）（三）



ブラジルのコーヒー農場での実習

国際農業開発学科のフィールド



マラウイの子供達と



ベトナムでのキャッサバ病害調査



ガーナでの聞き取り調査



ペルー アンデスの村で



ウガンダ イネ病害抵抗性調査



ウガンダでJICA短期派遣

国際農業開発学科は国際貢献できる人材の育成を目指し、日本だけでなく開発途上国を中心とした世界各地で研究を行っています

大学院

国際農業開発学専攻では、博士前期（修士）と博士後期（博士）を合わせて現在49名が在籍していますが、その出身地は14カ国に及んでいます。講義はすべて英語で行われますが、大学院生はそれぞれのお国訛り（？）のある英語で、とても賑やかです。



アフガニスタン、ナイジェリア、フィリピンから来日している留学生がヤムイモの収量調査を行っている様子。国際色豊かです。



当専攻の大学院生による英語による研究発表会。年2回行われ、各国の院生が熱のこもった発表や質疑応答を行います。



熱帯作物学研究室の長嶋さん（博士後期）が日本熱帯農業学会において学生優秀口頭発表賞を受賞。題目：ミャンマーで野菜利用される *Hibiscus* 属植物“CHINBAO”の実態

国内外での学会参加

国際農業開発学専攻では、学会発表を英語で行うと単位取得できます。この場合、発表要旨も指導の先生に添削を受けつつ英語で執筆し、提出します。学会についての下調べや発表申し込みから、発表の準備、練習、質疑応答の練習のほか、渡航手続きや必要な予算申請、発表、反省会など、研究発表に必要なステップを学ぶことができます。



東京農大では大学院生の国際学会発表を推進するための補助金支給制度があります。昨年・一昨年の東南アジア国際農学会（ベトナム、ハノイ市）には23人の大学院生が参加し、このとき東京農大から参加した院生間の専攻を超えた交流も行われました。また今年は、同学会がマレーシア、ボルネオ島にて開催されます。



先日、INTECOL という生態学分野では最も大きい国際会議が北京で開催され、3000人を超える世界中の研究者や学生が研究発表を行いました。当専攻からは、農業環境科学研究所の檜谷さん、澤田さんがポスター発表してきました。題目は: Relationship between mangrove produced phenols and dissolved iron elution.

その他の活躍



小学生向けに出版された「米づくりのひみつ（学研）」に、当院生の武田君と、ウガンダからの留学生パトリック君が登場。米づくりを支える病害防除研究やアフリカ稲作についてもメッセージを。

大学院生の進路情報

2015年～
青年海外協力隊、JICA、東京都庁、Alberoni University、国土防災技術株式会社、東京大学（研究員）、サカタのタネ、東京農業大学、Veolia in Japanなど

収穫祭



昨年度、熱帯作物学研究室では「植物遺伝資源～未来に種を届けよう～」というテーマで文化学術展に参加し、見事金賞を受賞しました。

熱帯園芸学研究室では毎年、銀杏、洋ラン、多肉植物の販売をしています。特に、試験管内で育てたインビトロプランツや温室で育てたミニサボテンなど、室内で手軽に観賞できる商品が人気です。



一昨年度、農業環境科学研究室では「持続可能な食料生産」というテーマで文化学術展に参加しました。



農村開発協力研究室ではブラジルに焦点を当てた模擬店を毎年開いています。



昨年度、熱帯作物学保護学研究室では「トマトとIPM」というテーマで文化学術展に参加し、入賞しました。



一昨年度、農業開発経済学研究室は「途上国の開発と発展を考える - アフリカの農業近代化と経済発展は可能なのか -」というテーマで文化学術展に参加しました。